

相馬市民生児童委員協議会

(平成 25 年 11 月 12 日掲載記事)

相馬市は浜通り北部に位置し、人口 3 万 7,796 名・1 万 3,240 世帯（平成 22 年度国勢調査）で、東側は太平洋に面し、漁獲量・漁獲高とも県内一を誇る松川浦漁港があり、県庁所在地の福島市まで 55km、宮城県仙台市までは 55km に位置しています。

地震から約 1 時間後に本市を襲った大津波は防波堤を乗り越え、大洲海岸から約 3.7km の距離にある国道 6 号バイパスまで到達しました。市内の原釜・尾浜地区、磯部地区などの集落が津波にのみ込まれたほか、農地の約 40%が冠水しました。

今回の大震災により 1,087 棟が全壊、245 棟が大規模半壊、687 棟が半壊、3,556 棟が一部損壊しました。復興に向けて災害公営住宅等の建設が進んでいますが、2 年半以上が経過した現在でも、津波により被災した方々は、まだまだ先の見えない生活を続けています。

市内 9 方部 75 地区で民生委員・児童委員 86 名（うち主任児童委員 18 名）が活動していましたが、震災直後は、担当住民の安否確認や避難所のボランティアに関わり、被災前の担当地区の住民で、現在は応急仮設住宅や民間借上住宅（みなし仮設住宅）ならびに災害公営住宅に居住している高齢者を中心に訪問等見守り活動を続けています。

また、各方部で震災直後でも毎月定例会を開催し、情報を共有しているほか、主任児童委員部会では、仮設住宅集会所を含めた 9 地区 10 か所で子育てサロンを開催しています。また、女性部会では、社会福祉協議会が行なう安否確認を兼ねたひとり暮らし高齢者や高齢者世帯等への食事サービスに積極的に協力する等の活動も続けています。

本年は一斉改選の年でもありますが、震災を風化させることなく、相馬市社会福祉協議会の生活復興ボランティアセンターや地域包括支援センター、ならびに行政等の関係機関との連絡連携を密にし、被災者の心に寄り添い、一人ひとりが安心して生活することができるよう、きめの細かい活動を続けていきたいと思ひます。

終わりに、震災当初より全国の民生委員・児童委員の皆様から多大なるご支援等をいただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。